

## 悪戦苦闘の窯焚きと新年度の粘土カフェの活動開始！参加者募集！

◎2008年3月16日作品の持込みの締切日、28名の作品が集まりました。同時に、穴窯の補修をしました。

◎3月20日、21日の2日をかけて、窯詰めを行ないました。

◎3月22日午前10時火入れ、ゆっくり「あぶり」を始め、850℃までは、予定通りでした。その後、1250℃を目指しましたが、生木のためか、1100℃台から中々温度が上がらず、苦しい窯焚きが続きました。湿った赤松の薪は、気を緩めるとすぐに窯の温度を下げます。さらに人手の少ない4日目、考えられる工夫をあれこれ試み、力を合わせ、1250℃を記録した時は、ヤッターと声をあげ抱き合って喜びました。最後の12時間は、1300℃前後の高い温度をキープしたまま、500束すべての薪を使い果し、26日正午、5日間の窯焚きが終了しました。

◎4月6日、窯出し。奥の棚まで灰がたっぷり掛かり、作品を棚板から剥がす作業は大変でしたが、鮮やかなビードロ釉や火色の美しい作品ができました。一定の温度を長く保つことや水蒸気を含んだ薪での効率の悪い焼成も、釉状に様々な変化をもたらすことがわかり、苦労は貴重な体験となりました。

◎18名の学生ボランティアさん、4名の一般ボランティアさんはじめ、総勢35名の参加者の皆様、また多くの方々から、物心共に数々のご支援を頂きました。感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



窯の補修



慎重に窯詰め作業



整然と並んだ窯の内部



窯前での小割り作業



生木を窯の余熱で乾燥



深夜の乾燥作業



最終日、最後の奮闘



1250℃越え！！



窯出しの結果に笑顔！



2009年3月に向けて



2t車で7往復



薪を割るボランティアさん

◎昨年度の苦労と反省をふまえ、早いうちから活動を始めています。4月20日、26日、大量の薪を運びこみました。

◎4月26日、27日、5月17日、18日、31日、6月1日、すでに6日間の薪割りを実施しました。

◎今年度の穴窯焼成に参加をご希望の方は、次回の薪割りの日程をご覧の上、ご参加よろしくお願ひします。

<今後の予定：4、5、6月は活動済み>

※薪割り：7月5、6日（その後の日程は未定です。参加希望者にもみ連絡します）

※定例作陶会：毎月、第3日曜日。（6・8・2月は第4日曜日）各10時～17時

（陶芸自主活動グループ「粘土カフェ」担当：田上 早百合）